



2007年3月期 第3四半期 説明会

業績の概要とトピックス

代表取締役社長

高橋 晃



業績の概要

引き続き 増収・増益 2桁伸長

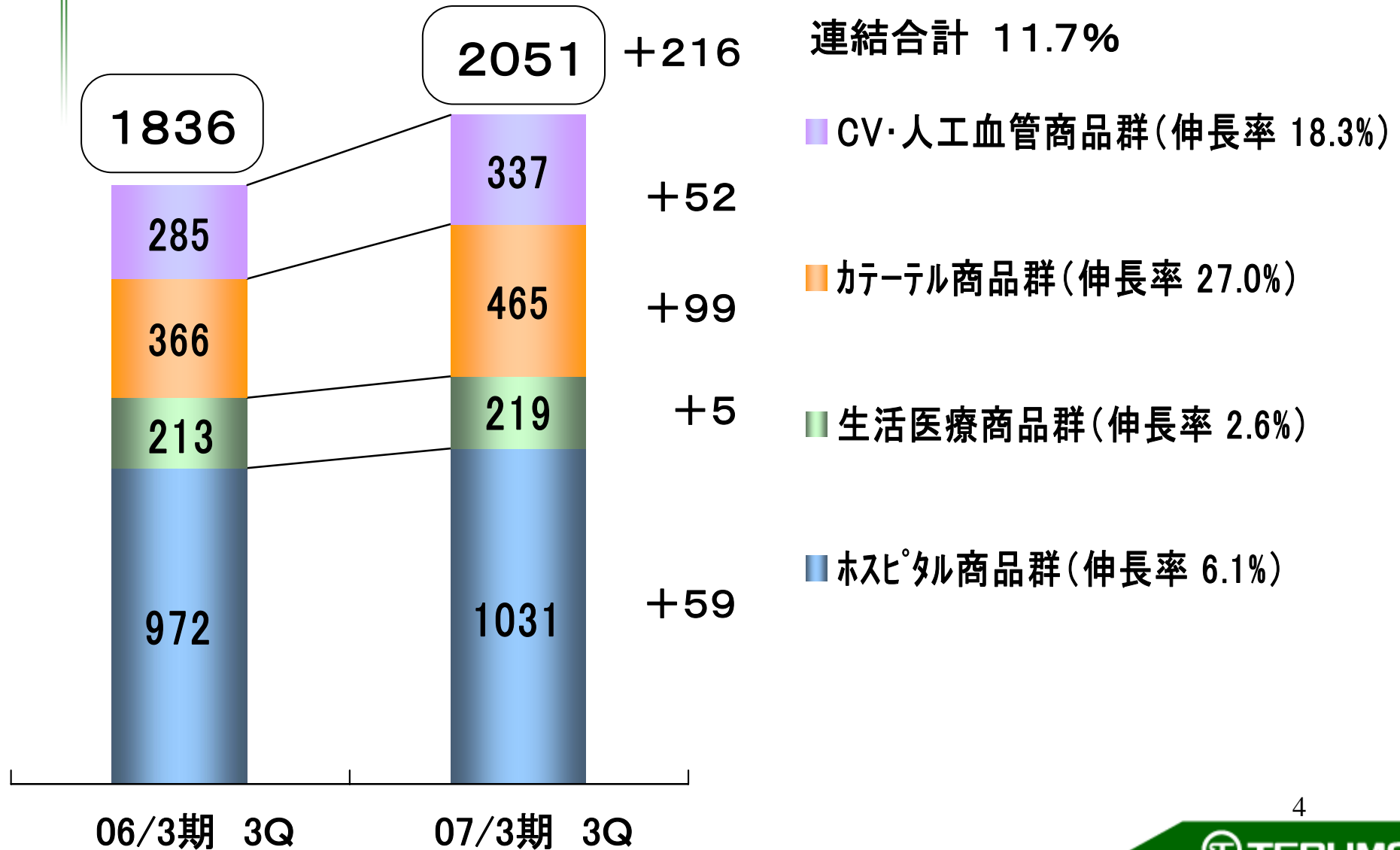
(億円)

	06/3期 3Q	07/3期 3Q	増減率
売上高	1,836	2,051	11.7%
粗利益(率)	1,001 (54.5%)	1,132 (55.2%)	13.1%
販管費(率)	614 (33.4%)	680 (33.2%)	10.7%
営業利益(率)	387 (21.1%)	452 (22.0%)	16.9%
経常利益(率)	393 (21.4%)	463 (22.5%)	17.7%
当期純利益(率)	250 (13.6%)	295 (14.4%)	18.0%

期中平均レート	US\$	112円	116円	3.6%円安
	EUR	137円	148円	8.1%円安

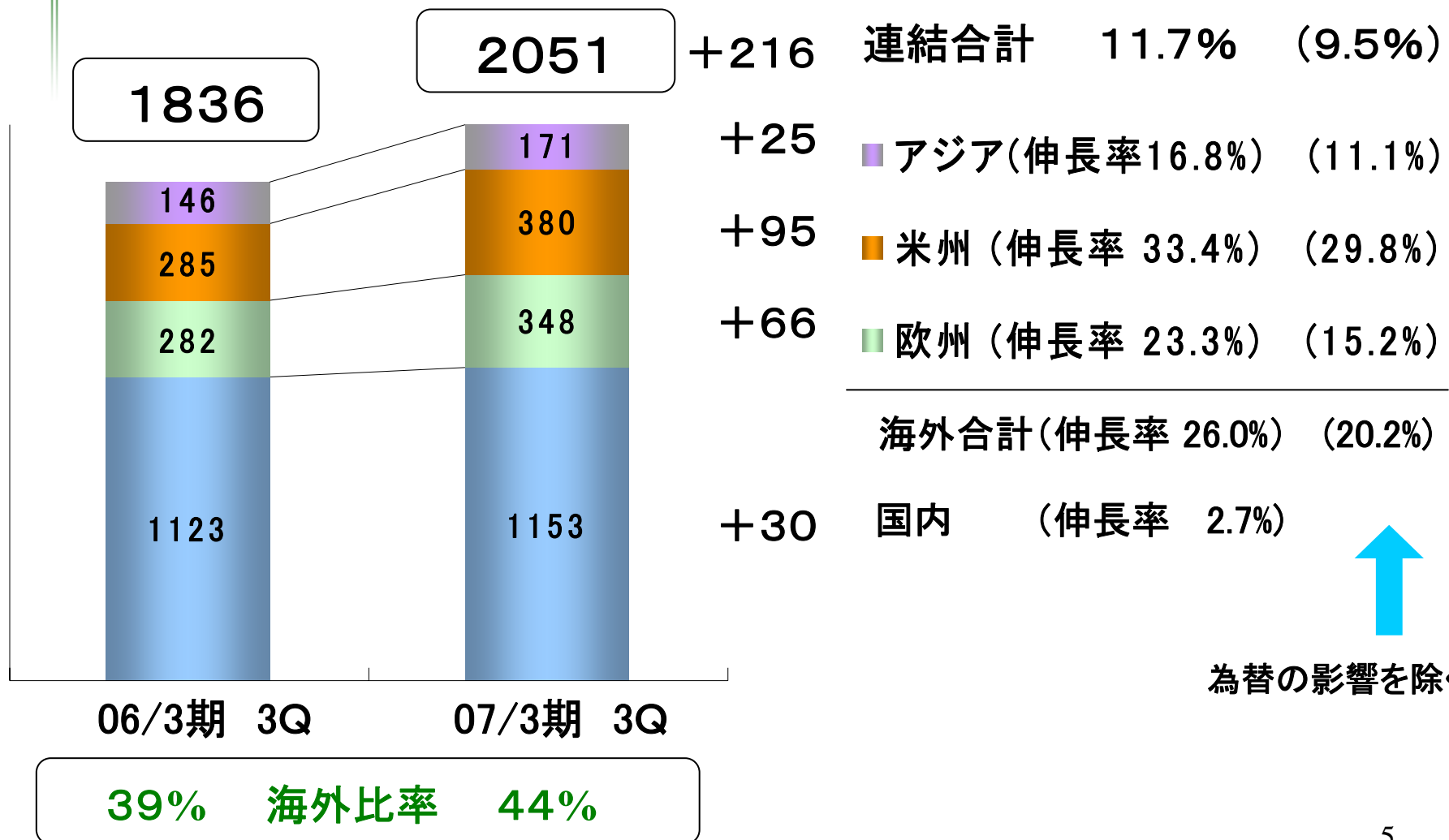
売上高(商品群別)

(億円)



売上高(エリア別)

(億円)



粗利益率 55.2% 前年比+0.7pt

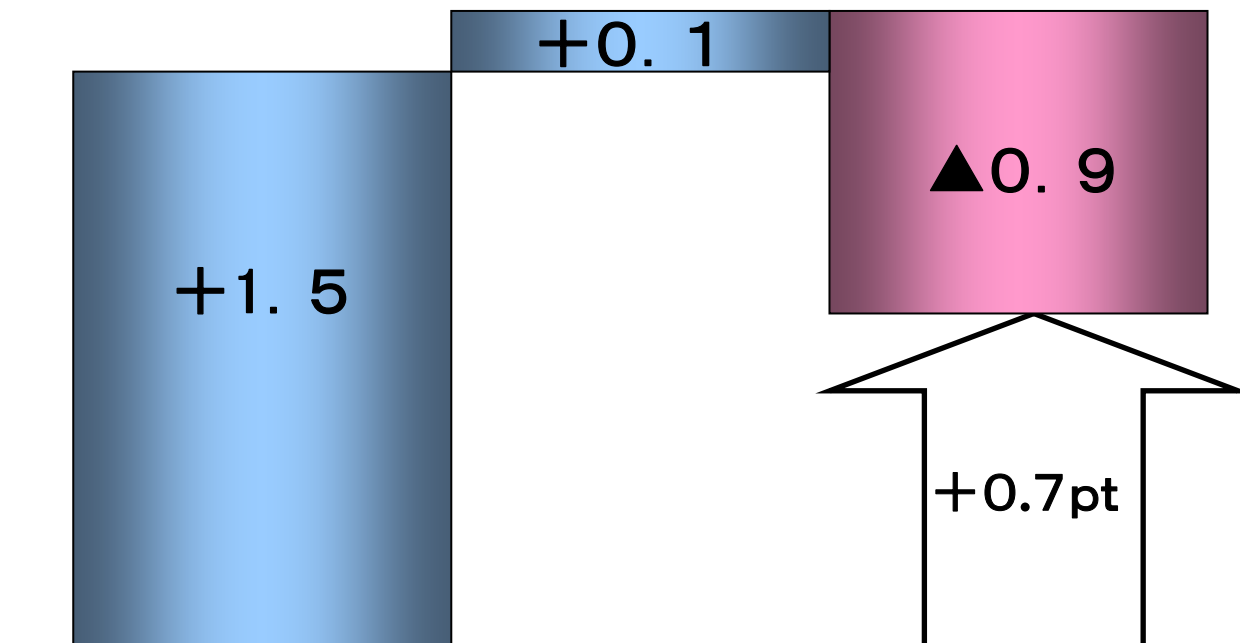
対前年プラス要因: +1.6pt

対前年マイナス要因: ▲0.9pt

高収益品へのシフト

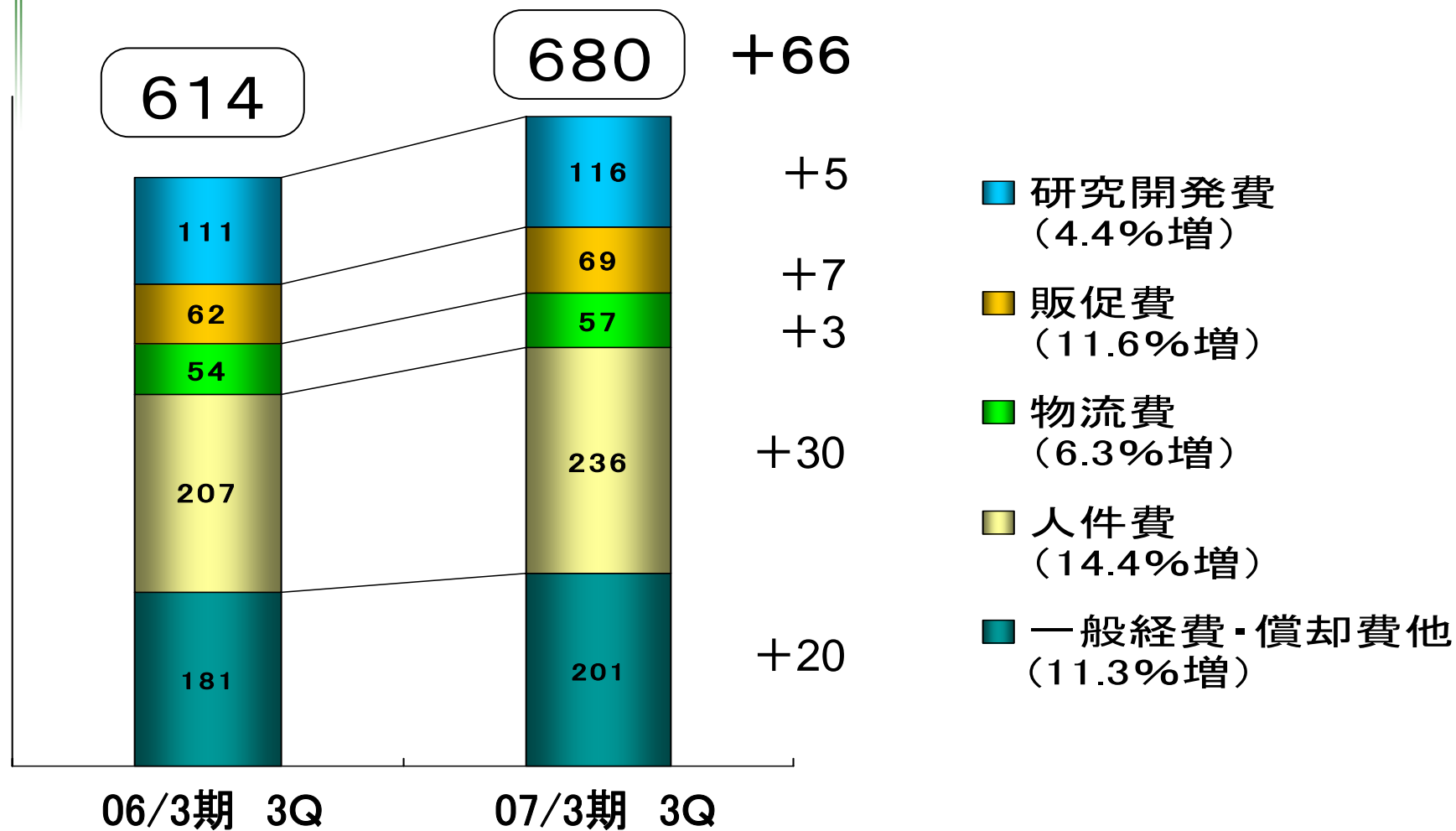
増産効果

価格下落他



販管費の内訳

(億円)



33.4% 販管費比率 33.2%

0.2ポイント減

通期見通しは達成見込み

(億円)

	06/3期	07/3期見通し	増加率
売上高	2,470	2,730	11%
営業利益(率)	483(19.5%)	575(21.1%)	19%
経常利益(率)	489(19.8%)	575(21.1%)	18%
当期純利益(率)	325(13.1%)	370(13.6%)	14%

年間レート

US\$ 113円
EUR 138円

US\$ 116円
EUR 148円



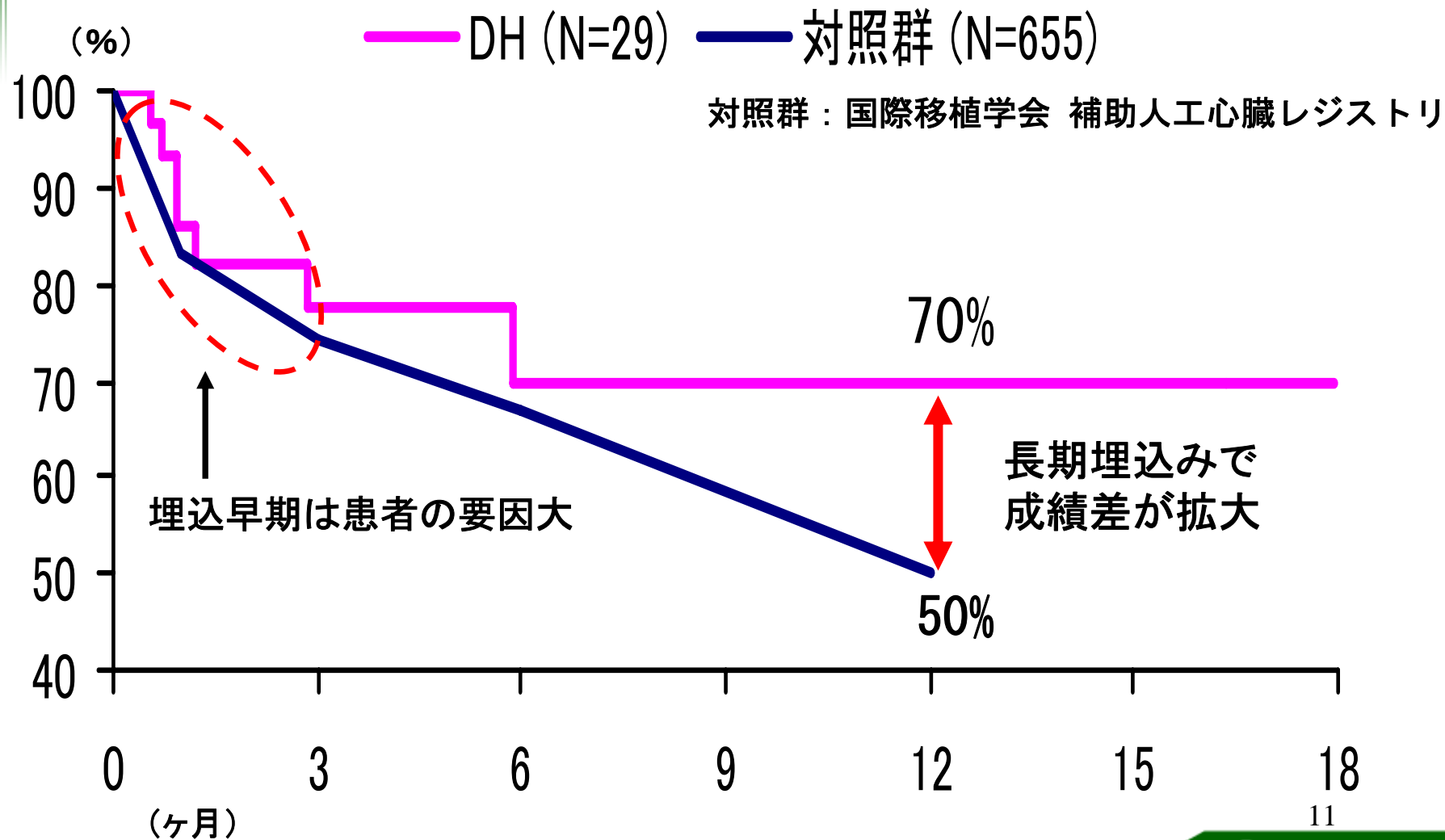
トピックス

最新臨床試験データ (2007年1月25日現在)

平均年齢	54.5歳
平均埋込期間	165日
埋込期間6ヶ月以上 (うち1年以上)	11人 (4人)
生存率	76%
平均入院日数	45日

長期的な生存率に差

Kaplan-Meier生存曲線による比較



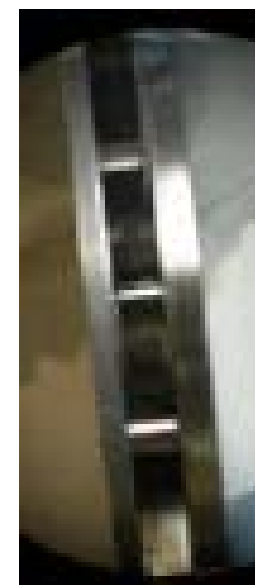
ポンプの抗血栓性の臨床評価

埋め込み497日後のポンプ内部とインペラ

ポンプ内部



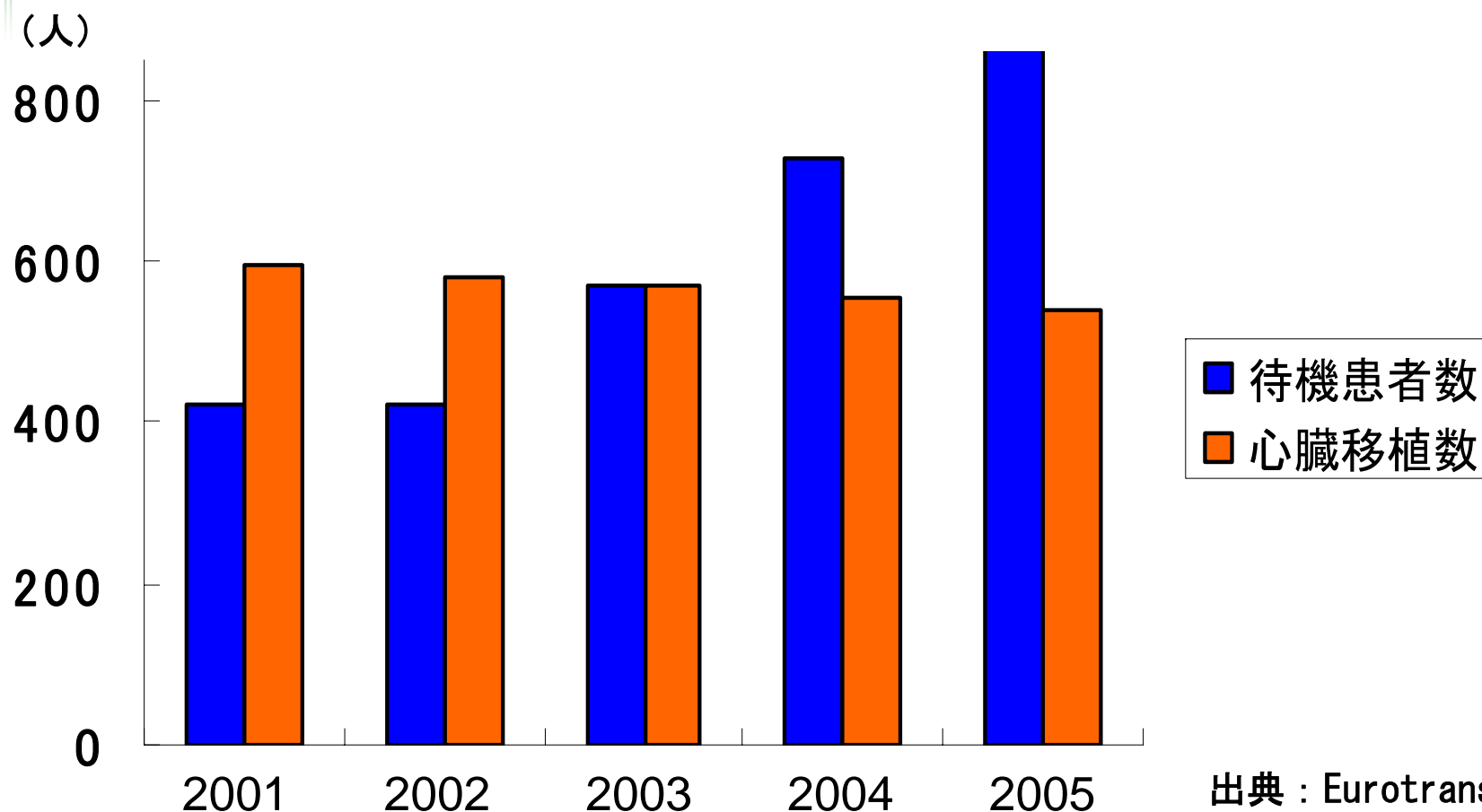
インペラ(羽根車)



分解したところ、明らかな血栓は認められず

欧州の待機患者数は年々増加

ドイツ・オランダ・オーストリアの心臓移植数推移



(西暦)

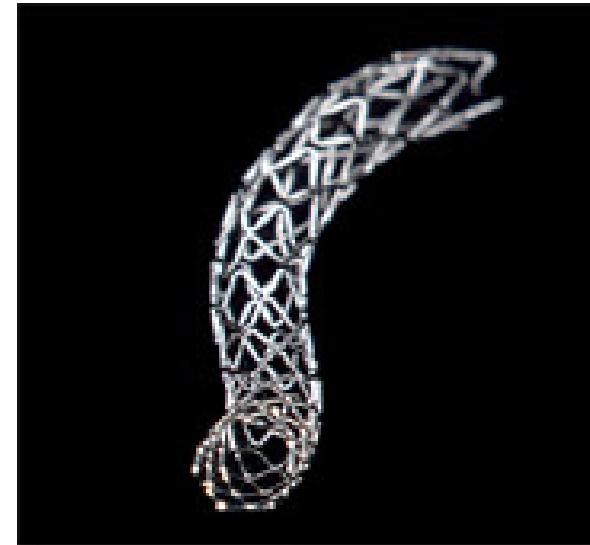
補助人工心臓 “DuraHeart”

- 欧州：今年度4QにCEマーク取得予定
- 米国：来年度中に臨床試験申請予定
- 日本：臨床試験申請のための準備中

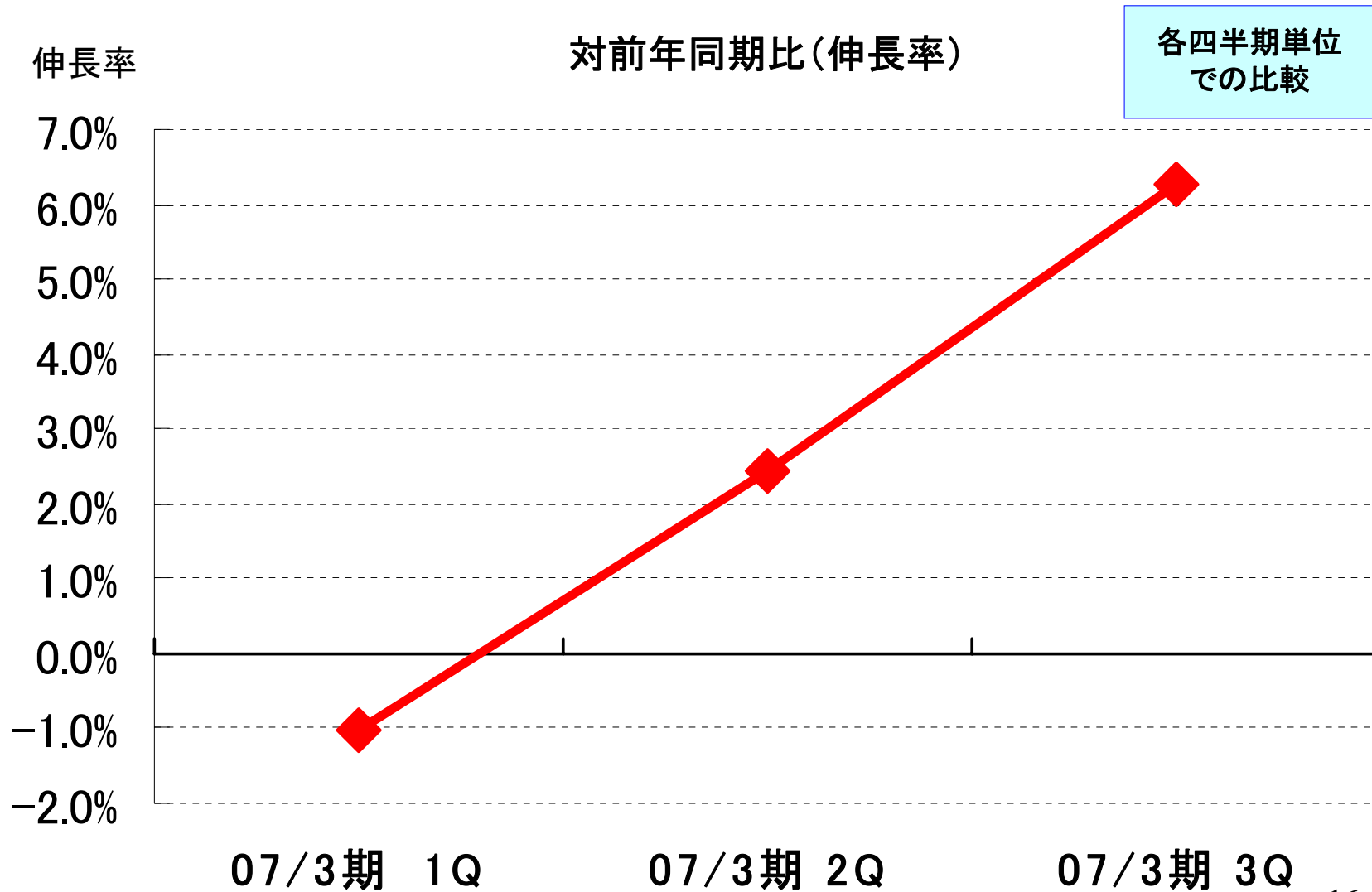


ドラッグエリユーティングステント “Nobori”

- 欧州：今年度4QにCEマーク取得予定
- 日本：臨床試験申請のための準備中
- 360例埋め込み完了



国内売上は回復傾向



医薬品が国内業績を牽引

➤ 輸液剤

- 商品の標準化・集約化が進行、業績を押し上げ
- リスクマネジメント新製品、アミグランドが好調

➤ プレフィルドシリンジ

- ミノフィットの売上が徐々に拡大
- 造影剤が好調を持続



肝臓疾患用剤・アレルギー用薬
“ ミノフィット ”



開通しないと点滴できない
“ アミグランド ”

糖尿病関連製品が引き続き好調

➤ 血糖測定器「メディセーフミニ」

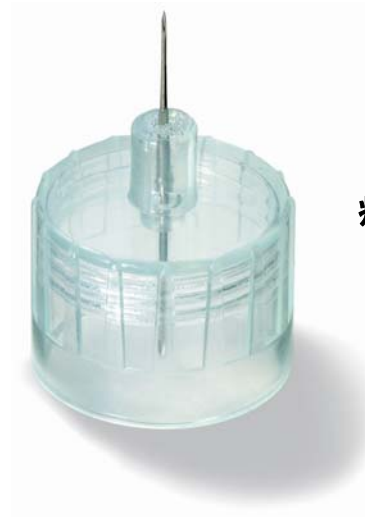
- 国内のシェア22%
- 安全性・簡便性を追求

“メディセーフミニ”



➤ インスリン用注射針「ナノパス」

- 国内の売上が徐々に拡大
- 今後、生産体制を拡充へ



痛みの少ない針
“ナノパス”

オリンパス社と共同事業を開始

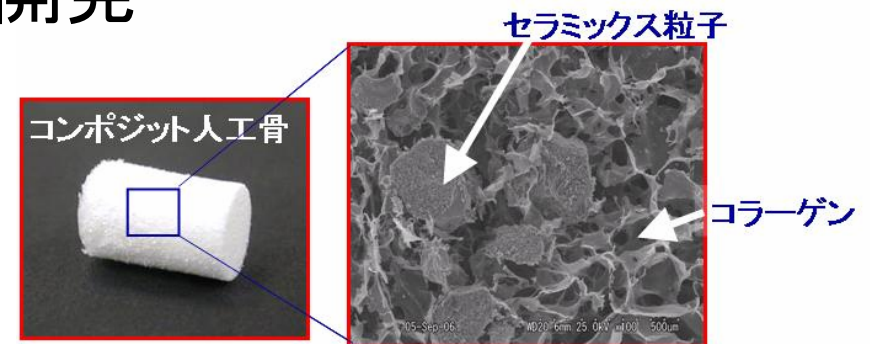
- ▶ テルモのコラーゲン事業と
オリンパスの生体材料事業を統合

「オリンパス テルモ バイオマテリアル社」

(2007年4月1日発足)

- ▶ 新しい人工骨複合材の開発

- ・ 骨疾患(骨折や骨腫瘍など)
の治療分野へ応用
- ・ 身体に優しい生体材料の開
発により、新たな低侵襲治療
の市場を創生



新しい人工骨複合材のイメージ

- ▶ 整形分野への足がかり

総合医療トレーニング施設

設 テルモメディカルプラネックス・イースト



4月正式オープン

最新のシミュレーション機器や模擬病院で
医療安全に貢献



模擬病院



シミュレーター:脳血管モデル



人間工学ラボでの実験



《おことわり》

本資料に記載されている業績予想ならびに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため様々な要因の変化により、実際の業績が、記載されている予想・見通しとは異なる場合があります。ご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、為替レート、競争状況などがあります。